

J R 東日本労働組合

秋田ジャーナル

東日本ユニオン秋田地方本部

発行日 2026年2月11日 第317号

発行者 佐藤 俊樹

編集者 教宣部

住 所 秋田市中通6丁目7-9 秋田県畜産会館

TEL 018-835-4040 FAX 018-835-4060



ユニオン本部「第13回中央委員会」を開催！ 2026春闘方針を決定する！

ユニオンの春闘要求！

☆昇給は能力昇給移行せず職制別にする。

主管職A - 6,200円、主管職B - 6,100円、主務 - 5,500円

主任 - 4,800円、指導 - 4,800円、係職 - 4,600円

☆ベースアップを要求

・社員 - 職務能力給を25,000円引き上げること。

・エルダー、セカンドキャリアスタッフも25,000円引き上げること。



中央委員会での加藤克衛さんの発言内容をそのまま掲載します。

各地本で組織拡大がなされる中、昨年の大会でもお話ししましたが、昨年2月に平成採用の若手組合員をはじめ25名もの大量脱退者を出し、さらに12月には脱退した若い人たちを支えたいと、地本を含め数々の役員を歴任してきた組合員1名が脱退しました。組織の強化・拡大を第一に運動を進めてきましたが、引き留めることができずこのような事態になったことを、本部並びに本日参加の委員・傍聴者の方々をはじめ全組合員の皆さまにお詫びを申し上げたいと思います。

さて、現在秋田地本は組合員55名、すべてエルダーであります。今後2年間で36名がエルダー退職となります。さらに「勇翔2034」が実現すれば、青森と秋田の2事業所に分かれ弘前地区の業務は青森へ再編されることとなります。この状況を踏まえて、組織体制をどうするのか検討しております。現在、分会組織がなくなり地本一本での活動となっており、北から南まで広範囲のため集まるのもままならず、各地区のグループ代表者会議を開催するのがやっとで、それ以外は共済・労金・賃金控除の福対・24控除対策が主要となっているのが現状です。財政的、役員の担い手、弘前グループの処遇等々の問題を考えると、2027年9月の定期地方大会が地本を維持できる限界と考えております。

以上を踏まえて将来的な組織の存続を考えた場合、今年の定期地方大会以降東北本部に合流し役割を分担していく事がベストではないかと考えております。本部でご検討をお願いいたします。

次にセカンドキャリアスタッフについてであります。

セカンドキャリアスタッフもほぼエルダーになる時と同様と理解しております。秋田地本では該当者11名のうち8名が応募しそれぞれ提示をされております。ただし、第一希望でない箇所へ提示された組合員が2名おります。昔からですが会社は「本人の希望は前広に考慮する」と常に曖昧な表現でかわしていると考えます。旧運輸区を例にとりますと、融合と連携といいながら、運転士は秋田鉄道サービス、車掌はLivit（JR東日本東北総合サービス）と最初から決めつけているように思えてなりません。実は私事で恐縮ですが、現在秋田鉄道サービスでエルダー社員として働いております。エルダーになる時、現職・Livitを希望しておりましたが、面談時にほぼ無理やりに秋田鉄道サービスと第三希望を書かされ、今に至る次第です。現在の統括センターではこの2つの会社しか選択肢がありません。ところが、労働条件・労働環境があまりに違いすぎるのが現状なのであります。

セカンドキャリアスタッフは会社も認めているように、65歳以上は健康面に不安があるので1年契約にしています。

このことを踏まえて、エルダー・セカンドキャリアスタッフともに「私傷病欠勤を本体同様180日にしてもらいたい」「功労金を6カ月でも出るようにしてもらいたい」「住宅等手当を支給してもらいたい」

エルダーになると寒冷地手当が無くなりかなり厳しい状況です。雪国・厳冬地では半年近く暖房を必要とします。新制度では本体に住宅等手当が月1万円支給されます。半分でもいいので支給してもらえようをお願いしたいと思います。

いづれにしても長年の経験と知識・技術・技能を持った方が会社に貢献できる環境を整えることも大切だと考えます。本体にできるだけ近い労働条件にして貰いたいということです。

最後に、はやぶさ・こまちの列車分離に始まり、昨日の架線切断と少し前までは考えられない事故・事象が多発しております。これは会社の進むべき方向が間違っているからとしか思えません。会社のチェック機能を果たすのも労働組合の大事な役割だと思っています。私どもエルダーも微力ながら力になりたいと考えておりますので、よろしくお願いします。